

# 文教厚生委員会行政視察報告

日 程：平成 24 年 11 月 2 日（金）

視察先：千葉県千葉市

参加者：鈴木利宏、竹川秀明、平岡 毅、乗越耕司、家森建昭、山下 守、渡邊國彦、寺尾孝治、  
執行部職員 1 名、事務局随員 1 名

## ◎千葉県千葉市

【人 口】 963,557 人 【面 積】 272.08 k m<sup>2</sup> 【一般会計】 3,658 億円

### ◆ 視察事項「療養給付費の抑制策について」

- ・ ジェネリック医薬品の利用促進
- ・ 特定健康診査、特定保健指導の充実
- ・ 生活習慣病の重症化防止のための個別保健指導

本市の国民健康保険事業における療養給付費の抑制策の取り組みの参考とするため、先進地である千葉県千葉市の取り組みについて視察を行った。

#### ・ 千葉市の現状について

- ・ 一般会計予算 3,664 億円
- ・ H23 年度国民健康保険特別会計決算額 871 億 9,400 万円（うち国保料収入額 207 億 9,700 万円：国保料が収入に占める割合 23.6%）
- ・ 市人口 96 万 4 千人のうち、26 万 7 千人が国保加入（加入率 27.7%）
- ・ 国保会計は、118 億円の累積赤字で、H23 年度は 32 億円を一般会計から繰入れている。
- ・ 国保財政健全化計画（アクションプラン）H24 年度～H26 年度
- ・ H24 年度は国保料の 6%引き上げを行った。

#### ・ 医療費の適正化について

##### （1）ジェネリック医薬品の利用促進

医療機関等で診療を受ける際、ジェネリック医薬品への切り替えを希望する医師を「ジェネリック医薬品の希望カード」を保険証と一緒に提示することにより、医師や調剤薬局に伝える。

平成 21 年 9 月に国保加入全 154,209 世帯へ郵送。

##### （2）ジェネリック医薬品に切り替えた場合の医療費の差額通知

調剤レセプト情報から、ジェネリック医薬品に切り替え可能なケースを抽出し、切り替えをした場合の医薬品の差額を通知することにより、その利用を促進する。なお、実施にあたっては、事前に医師会、薬剤師会と協議を行った。

運用にあたっては、長期の投薬期間（概ね 28 日以上連続。ただし、一部除く。）の人を抽出して、個別にハガキ（印字面を圧着）で通知。特に薬剤師会は非常に協力的。平成 24 年 3 月に軽減額 100 円以上の 27,931 人通知、平成 24 年 8 月に軽減額 200 円以上の 12,719 人通知。

#### ・ 特定健康診査・特定保健指導

市内の約 300 医療機関と契約し、個別受診方式で特定保健指導も併せて実施（集団検診はなし）

##### （1）特定健康診査において、国の定めた検査項目のほかに千葉市独自の検査項目を追加

ア ヘモグロビン A1c・・・糖尿病リスクの発見

イ 血清クレアチニン検査・・・腎疾患の早期発見（重症化による透析を防ぐ）

- ウ 血清アルブミン・・・75歳以上の高齢者対象。貧血、肺炎、骨折などの疾病予防
- (2) 受診勧奨・・・前年度の未受診者や特定の年齢層へ案内
- (3) 生活習慣改善の啓発・・・血糖値の高い者へ文書による啓発

## ・ 個別保健指導

特定健康診査の結果から、要医療診断とされた者のうち、医療を受けない者を保健師が訪問し、受診勧奨と保健指導により重症化を予防する。約190名をピックアップ。市民からは、出向いてきてくれたことに対する感謝の意思が伝えられることもある。文書の通知よりも効果は高い。

## ・ 委員の感想

- 国民健康保険事業の財政健全化に向けたアクションプランを策定され、今年度からの取り組みであり、成果なり結果は、まだ検証できないが、計画的には取り組みによって成果は出てくると感じた。いずれにしても、保険事業全体の見直しを国において検討いただくことが必要であると思った。
- 千葉市では、すでに国保会計だけでは収支が合わず一般会計からの繰入れでなんとか成り立っている状態であった。
- 被保険者が28.5%と本市と比較し数%多く、市民の就労状況の差なのか興味を引かれた。
- 本市も一般会計から補填しなければいけない前に種々の方策を立てなければならないであろう。
- いずれにしても全国の多くの自治体が国保会計では問題を抱えており、これらを解決しようとするならば国による抜本改革が必要であろう。現制度の所期の目的は達成されたものと思わざるを得ない。現制度をこれ以上続けるならば破綻する自治体がどんどん出てくるであろう。
- ジェネリック医薬品を希望する際に、医療機関や薬局で提示「ジェネリック医薬品希望カード」を配布し、保険証といっしょに提示する取り組みや、ジェネリック医薬品への切り替えの際に生じる差額を通知する取り組みなど参考になった。
- 生活習慣病の重症化予防策としての個別保健指導は、要医療診断とされた市民を、保健師が個別に訪問し、受診勧奨と保健指導を行う取り組みは、有効だと感じた。
- 本市も、国民健康保険事業の財政健全化に向けたアクションプランをあらゆる方向から検討して、具体的な実行計画を着実に進める必要性を感じた。
- 千葉市においても国民健康保険事業の収支バランスは均衡を失っていた。これを考えると国レベルで公費の割合を改善するような抜本的な取り組みが必要になると考える。
- 千葉市では、国民健康保険事業の財政健全化に向けたアクションプランを策定し、ジェネリック医薬品の利用促進、特定健康診査、特定保健指導の充実、生活習慣病の重症化防止のための個別保健指導など、PDC Aサイクルによって事業実施を図っている。

